

山田地区 地域説明会 会議録（概要）

- 日 時 令和 8 年 6 月 30 日（火） 15：00～16：35
- 場 所 山田公民館 2 階 大会議室
- 参加者 地域住民 10 名
- 傍聴者 （オブザーバー）市議会議員 5 名、報道関係者 0 名

1 再編準備委員会の設置等について

事務局 資料に基づき説明

2 質疑・応答

住民 A： 資料の「学校跡地の利活用について」の項目に、「解体・撤去」と「施設の改修」の両方が記載されています。矛盾しているように思いますが、どうなのでしょう
か。

事務局： 「解体・撤去」は、市や民間による活用が全くない場合に行うものです。「改修」は、例えば市が直接社会福祉の施設にするとか、子どものための施設にすると決
まった時に行うものになります。

住民 A： 事業者の選定というのは、市役所が行うのでしょうか。

事務局： 事業者の選定は、地域の意向なども含めて決定した個別の利活用方針に基づき、
市役所の方で事業者を探していく予定です。

住民 A： 離島などの児童数が少ないところでは複式授業を行っていますが、例えば小学 1
年生から中学 3 年生までをまとめて、それぞれの先生がついた方が、大人数よ
りもきめ細やかな授業ができるのではないのでしょうか。お話を聞いていると、統
廃合ありきの話にしか聞こえません。いかがでしょうか。

事務局： 少人数教育を否定するものではありませんが、予測困難なこれからの時代におい
て、正解のない問題を解決していくためには、多様な価値観を持つ人々と折り合
いをつけ、相談しながら新たなものを生み出す力が求められます。そのため、日
常的に多様な他者と関われるような教育環境を目指しています。

住民 A： 学校とは関係ありませんが、市が資金を出して第三セクターになり、二束三文で
売られてしまう施設もあると聞きます。今回の跡地がそのようなことにはならな
いのでしょうか。

事務局： 売れるから安く売ってしまおうというものではありません。民間に売却する場合
でも、それが市や地域のためになる事業を選定し、地域の意向も反映させながら
民間事業者を探しますので、金額だけで売却することは考えておりません。

住民 A： 児童が減っているというのは、当然、子どもが少なくなったということですが、
児童が集中しているところには集中している。山田地区はすごくいいところだ
と思うので、道路を整備したり、魅力ある地域づくりをしたりすれば新しい人が入
ってくるのではないのでしょうか。市のプロモーションが不足しているように感
じます。魅力的な地域を作れば、統廃合などしなくてもよいのではないでしょ
うか。また、山田小学校の廃校に反対する署名を集めて市に陳情書を提出しまし

た。多くの署名が集まっているのだから、もっと真剣に考えてほしい。少人数であれば先生の目が行き届き、市内で問題となっている不登校もなくなるのではないのでしょうか。

事務局： 山田地区にも他の地域にもいっぱい良いところがありますが、PR がうまく伝わっていないのが現状で、市内転入者より転出者の方が多い状態になっています。人口減少対策として、玉野市の良さ、山田地区の良さをしっかり PR して、人口減少が少しでも緩やかになるようにしっかり取り組んでいきたいと思います。

住民 A： テレビでしか情報収集できていないが、田舎でもすごく人が増えている地域があります。玉野市も田舎だけど、最近様々な企業が来てくれている。もっと市の人口、山田地区の人口を増やすためにはどうしたらよいのか考えてほしいです。学校はありませんが来てくださいといっても人は来ないと思います。

事務局： 新しい企業が来ることにより、市外から移住してこられる方もおり、定住人口の増加につながっている面もあると思います。人口減少対策としては、若い人が就職・定住できるよう、企業誘致等にもしっかり取り組んでまいります。

また、これまで、中学校の再編に関する説明会も、いろいろな地域で説明してきました。その中でも、学校がなくなること地域が寂れ、若者が移住してこないのではないかとのご懸念を多くいただいております。

一方で、教育委員会としての大きな目的は、人口減少に伴い児童が減少していく中で、これからの時代を生きる子どもたちにより良い教育環境を提供し、本市の教育の質を一層向上させることにあります。その目的達成に向けて再編計画を立てております。

住民 A： 通学に関して、バスを毎日走らせる経費と、現在の学校を維持管理する経費とでは、どちらが安く済むのでしょうか。バスは 1 日何往復するのか。中学校の部活動をしている子は帰りの時間が異なりますが、どうなるのでしょうか。

事務局： 中学校の部活動に対応するため、帰りのバスは 2 便走らせる予定です。確かにバスを走らせることで経費はかかります。ただ、学校を集約してどう経費を浮かせるかという考え方ではなく、子どもたちの教育環境を第一に考えた結果として再編が必要であり、再編後の通学安全確保のためにバスを走らせるという点でご理解いただきたいと考えております。

住民 A： 理解できません。山田小学校を残して学級を減らして維持管理するのと、バスを毎日走らせる管理費とではどちらが安いのかという計算はされているのでしょうか。

事務局： 一つの学校を維持する運営費の部分だけで、大体年間約 1,200 万円かかります。スクールバスは 1 台走らせるのに約 1,000 万円程度、路線バスを活用できる場合はさらに安くなります。

一方で、市内の学校の 60%以上が昭和 60 年以前の建築であり、今後維持していくためには 1 校あたり億単位の改修経費がかかってきます。それを加味しますと、合理性を持って再編を進めることは一つの財源的効果はあると思います。た

だ、あくまで財源を生み出すための再編ではないことはご理解いただきたいと
思います。

住民 A： どの学校も同じくらいの年代に建っているのだから、結局どこも改修が必要になる
のではないのでしょうか。現在の小学校は耐震補強が済んでいるはずです。

事務局： 耐震化は、一番最初に手を付けないといけないところですので、どこの学校も行
っております。

住民 A： そうですね。ですから現在の学校を使わない理由はないはずです。ただ、生徒
が少ないからなくした方がいいということですか。

事務局： 経費ありきでは考えておりません。耐震化は、東日本大震災の時のタイミングで、
全国一斉に各学校の安全・安心確保ということで進めました。それからだいぶ期
間が経っておりますが、耐震化をしているからそのまま使うというよりは、ここ
まで児童数が少なくなっている状況の中で、やはり統廃合を進める必要がある
と判断し、今回の再編を進めております。建物や財源ありきの計画ではないとい
うことだけは、ご理解いただきたいと思います。

住民 A： 八浜小学校と大崎小学校は、反対が多いから暫定的に残ると聞いていますが、ど
うでしょうか。

事務局： 教育委員会としましては、八浜小学校と大崎小学校の再編につきましても進め
ていきたいと考えております。

住民 A： 再編に反対する人は結構います。署名はしていないけれど残したいと思っている
人はかなりいるようです。

住民 B： 昨年、市長宛てに再編中止の要望を提出し、1 年延期になった経緯があります。
ここの適正規模化の方針を見てみると、具体策が全くないです。「教育的な視点
を大事に」とか、「中長期的視点」とか書いていますが、誰が見てもわかる資料
ではないため、私たちは判断ができません。言葉で言われたり、文章で書かれた
だけでは、実感として受け止めができないです。誰が見てもわかる資料があるの
かないのか、教えてください。

また、少人数であれば先生の負担も減り、一人一人に目を配ることができます。
むしろ少人数の方がいいと思います。山田小学校においては、いじめも不登校も
ないそうです。同学年では十分な教育ができないので、上級生、下級生一緒にな
って、縦割りで教育をしているようです。

事務局： 具体的に資料に記載した方が良いと思う内容を教えていただければと思います。
少人数の方が先生の見る人数が少なく、より手厚い教育ができるというのは物
理的にその通りです。ただ、子どもたちにより良い環境をと考えた際、これから
の時代に適した多くの児童が多様な他者と関わっていく環境を作りたいという
のが本計画の主旨です。

不登校についてですが、不登校の問題自体は、本市でも課題として、数年前から
捉えて一生懸命対策に取り組んでおります。不登校の背景としましては、それぞ
れのお子様に応じて様々ですので、一概に「小規模校だから」「人数が多いから」

というところではありません。取り組みとしましては、一人一人が学びやすい状況やその子に応じた適切な学びの場を作れるように学校外にもそういう場所を作ってきましたし、今では学校内に別室登校ができる教室も作っており、一定の効果が表れて、不登校は減少傾向にあると認識しています。

住民 B： 資料の件ですが、メリット、デメリットが比較できるような資料があったらいいと思います。それと、時代はどんどん変わってきていますので、小さい時に自分の好きなことができ、それを身につける環境を作るのが小学校だと思います。先生の資質にもよりますが、小規模ではダメなのではないでしょうか。時代は変わってきて、AI なんかはどんどん普及してくれば、むしろ先生が不要になる可能性もないことはないと思います。そういう様々な面を考えた場合に、今のままでもいいのではないかと思います。

事務局： 確かに、再編についてのメリット・デメリットを具体的にお示ししていくことは、非常に大事だと思います。こちらにつきましては、また改めて整理いたしまして、近々に、こちらの公民館の方に資料を設置させていただこうと思いますので、こちらでご確認いただければと思います。

住民 C： 跡地利用については「こちらが立ったら、あちらが立たない」というようなこともあるので、そこをどう判断されるのか少し疑問に思います。

また、市や市議会でこれまでどのような会議や経緯があったのか教えてください。さらに、保護者説明会ではどのような意見が出ているのかも教えていただきたいです。

事務局： まず、学校跡地の利用についてですが、ご意見いただきましたように、この文章で作っているルールだけでは、利用が決まらないということも当然考えられると思います。跡地利用を考える中では、基本的な考え方はありますが、一つ一つ地域の方と話をしながら、地域にとって市にとって、こういった活用がいいのかしっかり考えていきたいと思います。

次に、学校再編のこれまでの経緯ですが、令和 3 年度に市役所内部でまず検討を開始しました。令和 4 年 7 月に適正規模・適正配置検討委員会ということで、地域の方、保護者の代表、学校の代表、大学の先生などを呼んで、まず検討委員会に諮問という形で会議を開催しました。令和 4 年 7 月から令和 5 年 12 月まで計 9 回程度開催し、その結果、「複式学級の解消」と、小学校の場合は、「クラス替えができる人数の確保」、中学校の場合は、「全ての教科の先生が学校に配置ができる、1 学年 3 学級以上」という答申をいただいております。その後、令和 6 年度に、素案を策定した後、地域の方にご意見等をお伺いさせていただき、令和 7 年 3 月に、教育委員会の方針として、この適正規模・適正配置計画が策定されました。これが、この計画のこれまでの経緯になります。

それから、今回の再編にあたっての保護者説明会についてですが、山田小学校の保護者の皆様に対しましては、延べ 5 回の説明会を開催しております。山田小学校の現状や今後の動向を説明させていただく中で、保護者説明会でも直接、反対

のご意見もいただいております。賛成の方もいらっしゃいますが、説明会ではなかなか声が上げにくいというようなお声をいただいているため、山田小学校の保護者説明会でも、Google フォームで直接ご意見・ご要望をいただくような仕組みで意見を聴取し、それを説明会の中でフィードバックして形で進めております。「絶対に統合反対」というご意見がある一方で、「児童数が少ないため一定規模の学校で学ばせたい」「時代の流れで仕方ない」「通学路の安全が確保されればどちらでもよい」といった、中立的・賛成的なご意見など、様々な声をいただいております。

住民 D： 児童の親御さん何人かと話してみると、やっぱり賛否両論あります。また、最近、地域の人といろいろ話をする中で、家族全員ここの卒業生だという方もかなりいらっしゃるため、やはり母校がなくなる寂しさがあるようです。学校を残したいとか、跡地はどうするのかという意見もかなり多いです。また、この統廃合について、ここに勤められている先生はどう思われていますか。生徒が少ないから、市や教育委員会が言うから仕方ないという考えなのか。それとも今の状態でもいいから先生をしたいと思うのか。

事務局： ご質問の答えになっているかわかりませんが、教員自体は仕事なくなることはありませんので、岡山下どこかの学校へ継続して勤めることにはなります。基本的には、どの学校に配属になっても、その学校にいる限りは、目の前の児童に対して一生懸命教育活動を行います。

住民 A： それは答えになっていない。今、子どもを教える先生は、「この生徒を、卒業まで見送るんだ」という感覚でいるのか「県内ならどこでもいい」という感覚なのか。そんな簡単な問題ではないと思います。一人一人の児童の性格等を知っているのが先生だと思います。学校がなくなればその先生もいなくなり、子どもは全く違う環境に行くことになります。それは、登校拒否の助長になるのではないですか。子どもがいきなり違う学校へ行って、全然知らない子どもと友達になれるのか。そこのところは、教育委員会はどのように思っていますか。

事務局： まず、教員については、公務員ですので転勤はつきものです。卒業まで関わりたいとは思いますが、途中で異動になることは当然あります。その際、悔しい思いをする教員は多いと思います。ただ、基本的に私達は子どもたちの力を信じています。当事者は子どもなので、子どもたちがいかに自分たちでうまく友達とコミュニケーションを取るか。取れないんだったら、どんなふうに工夫をすれば取れるようになるのか。そこを支えるのが教員です。当然、困難はあるとは思いますが、子どもたちの力を信じて伸ばしてやるのが、教育だとは思っています。

住民 A： それは今の先生にできるのか。

事務局： できるように努めていると思います。

住民 A： 昔は、「弱きを助け、強きをくじく」というような子どもがいた。でも今は、そういう子がなくなったように感じます。いじめる子ばかりじゃないですか。違う学校に行ってすぐ馴染めるものなのではないでしょうか。どう思われますか。

- 事務局： 現在、保育園においてはサンマリン認定こども園のように、各地区から同じ場所に集まっていたり、小学校の行事へ共同参加したり、日常の学習の中でオンラインを活用して発表し合ったりするなどの交流を重ねながら、子どもたちが早い段階でお互いを知り、新しい環境で一緒に活動することを楽しみにできるような流れになるよう、教育活動を展開しています。すべての生徒が新しい環境にきちんとなじめるよう、全力で取り組んでいきます。
- 住民 A： 取り組んでくれるんですね。
- 事務局： 取り組んでいます。
- 住民 E： 学びの姿ということで、個別最適な学びと、協働的な学びを一体的に進めることというのがありましたが、個別最適な学びというのは、多分今できていることだと思います。協働的な学びというのが、統合した時にあたるのかなと思っています。協働的な学びについては、例があったので分かりますが、個別最適な学びというのは、統合して生徒数が増えても先生の数が増えない中で、どうやってを教えていくのでしょうか。
- また、再編の時期が令和 10 年度と書かれていますが、これは決定ですか。
- 事務局： 教育委員会としては胸上・山田・後閑小の最終的な再編は、令和 10 年度に向けて進めていきたいとは考えております。
- 住民 E： それは、もう延びる予定はないということですか。
- 事務局： はい。このスケジュールで進めていきたいと考えております。
- 住民 E： これから再編準備委員会を立ち上げて、1 年半ほどの短い期間で一気に済ませてしまうということですか。
- 事務局： 再編準備委員会で検討すべき内容は多岐にわたります。実際、非常に多くの方に関わっていただくことになります。再編準備委員会というのは、総務部会、PTA 部会、学校運営部会、通学安全部会という形で、4 つの部会に構成して、それぞれ並行して進めていくようになります。
- 住民 E： 資料に書いてくれているので分かりますが、その膨大な量を決めてこちらの意見も取り入れるとなったら 1 年半で終わるのかというのが聞きたい。約 1 年半という期間内で計画のすべてを完全に完了させる方針なのか、あるいは、一定の合意が得られた段階で区切りをつける形にするのか。もしくは、一部の課題が残った状態であっても予定通り再編を進め、残された課題は再編後に継続して取り組んでいくという想定なのか、教えてほしいです。
- 事務局： 現段階で、中学校の再編準備委員会をそのくらいの期間で進めておりますので、この期間で必ず内容を精査していくという形になります。ただ、こちらについては教育委員会が、決めていくというようなやり方ではありません。あくまで、保護者や地域の方が、それぞれ議論して、一つ一つを検討した上で決めていくという形になりますので、そういったところは、ご理解いただければと思います。

住民 E：一つ一つを決めるのに、1 年半で足りますか。なぜ、そんなに急いで再編しないといけないのかわからないです。再編委員会の方々がいろいろ考えてくれると思うのですが、それを 1 年半という短い期間で全部終わらせる、ところに少し不信感があります。

事務局：懸念されている内容の中で、具体的にどのような事柄について、どの程度の期間をかけて丁寧なすり合わせを行うべきだとお考えでしょうか。ポイントがあれば教えていただけますか。

住民 E：中学校の進捗を見ると、校名や制服は「こんな意見があります」という形で連絡アプリに流れてきていたと思います。内容や流れは中学校の方で見ているので、大体わかるのですが、気になるのは学校運営や教育内容というところです。最初の方だけでも、先生を増やすということはできないのでしょうか。いきなり倍ぐらいに増える生徒を先生が責任を持って見ていくということですか。

事務局：先生の定数というのが、児童生徒数によって決まっていますので、学級が増えるぐらいの子ども数が増えれば、教員数が増える可能性はあります。

住民 E：3 校が統合してもクラス数自体は増えないので、先生の数が増えませんよね。

事務局：複式学級を作らないという方針で動いております。

住民 E：クラス替えもないので、先生の数も増えないということですよ。そこで、個別最適な学びができるのかというのがわからない。もし、個別最適な学びができるのであれば、どのようにやっていくのかという例が欲しいと思います。協働的な学びについては、資料の例でわかりました。

事務局：今、国が出している方針としては、「主体的・対話的で深い学び」を実現することを目指しております。一番の変更点としては、「深い学び」のところになりますが、一面的で単純な暗記教育ではなく、子どもたちがどれが正しいかわからないような問題を解決していくために、知識だけで答えていくのではなく、新たなものを生み出していくための学びを目指していきたい。その過程の中で、やはり仲間と相談をしたりとか、時には意見をぶつけ合ったりしながら、自分の考えを改めて考え直していく。その根本になるのが、個別最適な学びのところになります。これも、いろいろな場面があるので、一概には言えませんが、以前であれば、先生が目標ややり方を決めて行う授業が多かったと思いますが、今は子どもたち自身が目標を考えて、やり方も選択をしていきます。そんな中で、発達段階にもよりますが、子どもたちが単に学習内容を学ぶだけでなく、学び方も学んでいく。当然発達段階に応じて、その学び方もどんどん複雑にはなっていますが、そういったところを目指しています。

住民 E：それは一緒にしないとできないという認識でいいですか。実際、山田小学校に通っている子どもたちは、今言われたことを自分でできていると思います。「仲間と考えを深める学び」ということでしたが、仲間が増えるから再編をした方がいいという感じになりますか。最近リモート授業をしているという話を聞くんですが、そのような形で続けていくのはこの学校では無理ということですか。

事務局： 度々出てきますが、少人数を否定しているわけではございません。当然、少人数には少人数の良さがあって、小規模校でも子どもたちが力をつけているというところは、認識をしています。

住民 E： では、なぜ再編を急がないといけないのですか。

事務局： 再編の計画自体は、様々な観点や、いろいろな会議を経て決めてきていることですので、一つの視点に焦点を当てると、疑問がでてくるかもしれませんが、総合的に判断した結果、一定の多様な他者がいる環境の方が、様々な教育効果が高まりやすいというところで判断しております。

住民 E： 小規模を否定していないというのはわかりましたが、やはり最初だけでも、先生を増やしてもらった方が、子どものためにはなるかなと話を聞いていて思います。どうしても無理なのでしょうか。

事務局： 例えば、1 クラスに2 人ずつ担任をつけるといった極端なことはなかなか難しいと思います。ただ、再編に関わるものについては、ある程度配慮されることもあるので、働きかけはしていきます。それから、先生ではありませんが、支援員といった方に見守っていただくことは十分できると思うので、そのあたりはしっかり検討させていただきたいと思います。

住民 E： よろしくをお願いします。

事務局： 本日は、お忙しいところお時間をいただきまして、ありがとうございます。それでは、最後に、教育長から一言ご挨拶を申し上げます。

教育長： 予定の時間をだいぶ超過しまして、大変申し訳ありません。地域の皆さんのご意見は、本当に真摯に受け止めさせていただいております。今日いただいたご意見、あるいは、本日アンケート用紙をお配りしていますので、そちらへ忌憚のないご意見をご記入ください。今後、他地区へも説明に参りますので、その上で総合的に判断をさせていただこうと思います。令和6 年11 月に、「しっかり丁寧に地域・保護者に学校の在り方についての説明をしてほしい」と山田地区から陳情書をいただいております。議論の中でも出ましたが、当初の計画案から一年延ばし、一定のご理解をいただきたいという思いで、保護者説明会を5 回開催し、地域にも出向いて、できるだけ丁寧に説明を重ねて参りました。

地域の方と、遺恨を残してまで何が何でも再編を進めるというつもりではありませんが、やはり未来を担う子どもたちのために、よりよい教育環境を我々としては提供したい。私は、13 の小学校全学年全クラスの授業見学を毎年行っております。児童数があまりにも減ると子どもたちの選択肢や可能性が狭まってしまうことを痛感しております。未来を担う子どもたちには、一定規模の中で多くの友だちと意見をぶつけ合い、折り合いをつける力を身につけてほしいと思っています。どうか子どもたちのために、再編へのご理解を深めていただきますようお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。